

2026 年 年頭挨拶

2026 年 1 月 5 日 今井康之

2026 年の年頭にあって、ご挨拶を申し上げます。

2025 年の自然科学系のノーベル賞のうち 2 つ（ノーベル生理学・医学賞およびノーベル化学賞）では、2 名の日本人研究者が受賞しました。いずれも、基礎的な研究内容を長年にわたって辛抱強く継続した成果です。このところ、日本の科学研究力の低下が懸念されていますが、短期的な流行に流されず、基礎研究への継続的な支援の重要性を改めて感じました。

今年度から 6 年間にわたる第 4 期中期目標の期間が始まりました。年度計画の作成と報告がなくなりましたが、計画の進捗状況は 2024 年度に県に提出した数値目標の達成度で評価されます。また、大学の認証評価に対応した質保証活動と中期年度計画の推進活動が新たに作られた「質保証委員会」に一本化されました。一方、中期計画の期間を越えて将来を見通すため、「将来構想委員会」を中心に、本学の長期的なありかたを議論していく必要があります。

静岡県の財政状況の悪化をふまえ、2025 年 7 月の県のサマーレビューによって、県立大学への運営費交付金や修繕費などについて厳しい査定がされています。来年度の予算編成に苦戦しているのが実情です。引き続き、県立大学の存在感および存在意義を訴え続けますので、ご尽力をお願い致します。

一方、自主財源の確保をめざして、「サポーターズクラブ」を設立し、企業から寄附を集めています。そのほか、体育館の暑さ対策として「クラウドファンディング」も行なっています。あわせて、ご協力をお願いします。また、「ネーミングライツ」についても、可能性を探っています。

ところで、文部科学省の中央教育審議会が 2025 年 2 月 21 日に答申

した「知の総和」答申については、すでにご存知のことと思います。問題意識としては、2035年から2040年にかけて予測される急激な18歳人口の減少への対処があります。3つの点に注目すべきでしょう。一点目は、教育の質の向上です。そのために、今後認証評価を「適合／不適合」から「段階的評価」で教育の質の向上をめざすというものです。二点目は、人口減少に対処するため、「高等教育機関全体の規模の適正化」があげられています。三点目は、高等教育へのアクセスの確保があり、地方の公立大学としては重要な観点だと思います。

さて、昨年末に、中央教育審議会大学分科会の「質向上・質保証システム部会」の第7回の会議に呼ばれて、3ポリシーに基づく教育改善、学修成果の可視化、質向上に向けた本学の取り組みについて、発表してきました。本学以外の大学からは、学生の主観的自己評価を中心にデータ分析を進めて教育改善に取り組んでいる先進例が発表されました。本学でも集計比較可能なデータに基づいて、教学組織分析の取り組みを進める必要があると思います。

このような本学をめぐる環境の変化を乗り越えていくには、数値的分析を含めて客観的に実績を主張することが重要と考えます。事実に基づく実績および学外からの評価が有効でしょう。

数値的分析に基づく学外からの評価の例をいくつかあげます。

まず、日経キャリアマガジンに掲載された「卒業生の活躍度が分かる新・就職力ランキング 2025-2026」中小規模大学版があります。入学定員2,000以下の中小規模の国公私立大学が対象です。企業の人事担当者にアンケートを取り、「各大学を卒業した新入社員の資質・姿勢」および「その大学の取り組み」について、数値化して評価したものです。総合ランキングでは、1位：長岡技術科学大学（国）、2位：名古屋市立大学（公）に続いて、同点3位に本学と室蘭工業大学（国）が入りました。

一方、日本の研究力の低下の数値指標として、いわゆる「トップ10%

の研究者の数」によるランキングの低下がしばしば報道されています。米国スタンフォード大学とオランダの大手学術出版社のエルゼビア社による調査によって、2025 年 11 月に在籍している研究者で、2024 年に論文が引用された実績をもとに、分野ごとにトップ 2 % 入る研究者が発表されましたが、本学に 6 名が在籍していることは喜ばしいことです。

また、地域貢献・国際交流での取組の実績としては、名古屋市立大学による『中部圏リカレント教育プラットフォーム』に参画し、「介護福祉士養成施設機能を活用した地域型ネットワーク産学官モデルの開発」事業を展開して介護人材の確保・育成を目指すほか、昨年、静岡県、浙江大学、静岡大学との間で協定締結したスタートアップ企業の支援や、海外協定校との間での交換留学や、短期留学などを実施しています。

教育、研究力の向上はもちろんのこと、地域貢献、国際交流においても本学の存在感を高め、選ばれる大学を目指し、教職員一丸となって取り組むことを願い、年頭の挨拶といたします。